

状について、近代地震学の貴重な資料として注目されている。

- 3 最近の研究によって、本断層の地下に存在する断層の実態が明らかにされ、濃尾地震の時の災害記録の検討や水準測量の結果等と照合することによって、本断層周辺の地殻変動史を解明することが期待されている。

9-52

総学庶第1585号 昭和49年9月28日

文 部 大 臣
人事院総裁職務代行 } 殿 (各通)

日本学会議会議長 越 智 勇 一

大学院学生など無給研究者の研究災害補償制度の確立等について(要望)

標記について、本会議第442回運営審議会の議に基づき、下記のとおり要望します。

記

本会議は、昭和45年10月、第57回総会の議に基づき、「大学院学生など無給研究者の研究災害補償制度の確立等について」の勧告を行った。

政府においては、その制度の確立等について検討されていることと考えるが、文化の基盤を担う有為な若い研究者を養成し、確保するためにも、大学院学生など、いわゆる無給研究者に対する災害補償制度の確立等は、今日、きわめて重要かつ緊急な課題となっている。

本会議は、政府において、さきの勧告の趣旨を実現することについて、早急に然るべき措置を講じられるよう要望する。

9-53

総学庶第1672号 昭和49年10月7日

科学技術庁長官
運 輸 大 臣
原子力委員会委員長
日本原子力船開発事業団理事長 } 殿 (各通)

日本学会議会議長 越 智 勇 一

原子力船「むつ」をめぐる問題について(申入れ)

標記について、本会議第443回運営審議会の議に基づき、下記のとおり申し入れます。

記

原子力船「むつ」の出力上昇試験に関連して現在生じている事態は極めて深刻である。

政府の派遣した調査団による中間報告によっても、原子炉設計、建設に際しての安全審査のあり方等に重大な欠陥のあることが明らかとなりつつある。

本会議は関係諸機関が速やかにこの事態にふさわしい責任を明らかにすることによって、今後の我が国の原子力平和利用の将来にとって何よりも必要な国民の信頼をとりもどすことを切に望むものである。